

銀賞

分かりきっている

株式会社東海理化 音羽工場

左右田 基生

“当たり前の事を当たり前とってはいけない”と、よく決まり文句でいろいろな人たちが言いますが、まず“当たり前”とは何なのか？私はネットで調べてみました。“当たり前”とは、“分かりきっていること”という意味だそうです。ということは言い方を変えると“分かりきっていることを分かりきっている”とってはいけない”となります。これがどういう意味を示しているのか、自分の経験談を添えて一方的に私一人の個人意見を話していきます。

私は入社して4年目で、生産技術部という部署に所属しています。仕事柄、設備を触ることが多い職場で、自分が扱ったことある設備関係は“分かりきっている”つもりでした。まだ半人前にもなりきれていないですが。

ある日、私がいつもどおり成形トライをしに成形機のところへ足を運びました。いつもどおりトライの準備のため、成形機に金型を載せ、条件プログラムを呼び出し、金型温度を調整し、いつもどおりの“分かりきっている”ルーティーンで段替えを行っていました。よし、トライの準備完了！ということでまず金型を開き、金型機能に問題ないか製品押出しのエジェクタピンの動作を確認しようと押出しの信号を出すボタンをいつもどおり私は押しました。あれ？全く動かない。何回ボタン押しても反応しない、おかしい。きっと金型の機能不良、もしくは成形機側のメカ的な故障だろうと思い、すぐに成形機に詳しい先輩に見てもらいました。そしたら先輩に即座にこう言われました。「まさか成形機側の押出しロッド数の設定を間違えてないよな？」と。私は、「この金型はセンター1点の押出し仕様になっています。そして、この成形機はいつも決まって1点押しロッドが設定されている状態になっているはずなので問題ありません。」と言いました。そしたら先輩から、「ん？1点の押出し設定になっているはず？段替えする前に本当に1点で設定されているか確認したのか？」と言われ私は、「いいえ。確認していません。いつも1点の押出しの設定になっていますので。」と、“分かりきっている”ように言い返してしまいました。それを聞いた先輩は呆れたように「じゃあ、金型降ろして答え合わせしてみるか？」と言われ、私はそんなことない！と思いながら金型を降ろしてみました。

目視確認してみると私が間違っていました。成形機の押出しロッドは縦3点に設定されていました。それがわかった瞬間、私は恥ずかしくなりました。先輩にため息をつかれながら「はあ、やっぱりそうだったかあ」と呟かれ、私は「すみませんでした。確認不足でした。」と失態に赤面しながら謝りました。私がそう思い込んでいたのも、本来であればトライ前の元の状態に戻すのが段替えルールでしたので基本的には押出しの設定は1点になっているはずということ で“分かりきっている”と思い込んでいたからです。

ただしばらくしてこのことを思い返すと、ゾッと寒気も襲いました。今回のミス の代償としては金型段替えのやり直し工数だけで済みましたが、これがもし金型や設備を壊すことにつながっていたら、大袈裟に言ったら最悪、人の命に関わる甚大な事故につながっていたらと思うと私は震えました。そう言っ ていいほど“分かりきっている”ということは恐ろしいです。私の“分かりきっ ている”は、ちっぽけな体験談でしたが、この体験により、私は“分かりきっ ている”と、つい思っても、自分を疑うように確認を怠らないような仕事をす るようになりました。

“分かりきっている”ことは本当に“分かりきっている”ことでしょうか？ そんなことを振り返って考えてみるのを“当たり前”になるといいなと思いま す。